令和元年度 第 8 回教育委員会定例会

議決事項

件　　名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第 26 号 令和元年度垂水市一般会計補正予算（第４号）案についての市長への意見申出について	令和元年度垂水市一般会計補正予算（第４号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
議案第16号 令和元年度社会教育功労者の決定について	垂水市社会教育関係表彰規程に基づき、令和元年度社会教育功労者を決定するものである。	特記事項なし	承　　認
議案第17号 垂水市教育支援委員会答申について	垂水市教育支援委員会の答申を受けて、児童生徒の望ましい措置を決定しようとするものである。	特記事項なし	承　　認

令和元年度　第 8 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出　　席　　者	
令和元年11月11日（月） 午後２時００分 ↓ 午後４時００分 第２研修室	教　育　長　坂 元　裕 人 教育委員長　田 原　正 人 教 育 委 員　葛 迫　幸 平 教 育 委 員　田之上 厚 美 教 育 委 員　福 里　由 加	教育総務課長　紺 屋 昭 男 学校教育課長　明 石 浩 久 社会教育課長　野 嶋 正 人 国体推進課長　米 田 昭 嗣

会　議　要　旨

１　開　会

定刻、定足数に達しており、令和年度第８回教育委員会定例会を開会した。
議案第16号、17号の２件は非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

２　令和元年度第７回定例会会議録の承認

承認

３　議　事

報告第 26 号　令和元年度垂水市一般会計補正予算（第４号）案についての市長への意見申出について
議案第 16 号　令和元年度社会教育功労者の決定について
議案第 17 号　垂水市教育支援委員会答申について

４　その他

なし

５　委員並びに教育長及び課長報告

６　閉　会

議事内容等

３　議　事	報告第 26 号 令和元年度垂水市一般会計補正予算（第４号）案についての市長への意見申出について
教育総務課長	補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告した。
教育長	外国語活動指導講師の新たな雇用について説明を求める。
学校教育課長	外国語活動指導講師が現在２名で、各小学校すべての外国語活動の授業において担任の先生と一緒に指導している。来年度から事業時数が増えることから、今年度のうちに新たな人材を確保するという点から、１月から３月までの３か月間の雇用について今回の補正で計上したものだ。なお、次年度からは３人体制で指導していく予定だ。
教育長	わかった。 議案第 16 号 令和元年度社会教育功労者の決定について （非公開） 議案第 17 号 垂水市教育支援委員会答申について （非公開）
４　その他	なし
５　委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員並びに教育長及び各課長報告に入る。
田原委員	１．「学校訪問について」 10月15日（火）、牛根小、境小が今年最後の学校訪問であった。 ２学期中盤のこの時期は、学校経営の成果を示さなければならない時期でもあるので、学校訪問を計画される学校が少ない中、２校の校長先生方の自信に満ちた学校経営と授業公開であったと思った。 牛根小は、これまでの教科をしぼっての研究テーマから教科を貫く指導法の改善へとシフトした研究テーマを設定していた。 その具体策は、全国学力テスト問題や自校の児童一人一人のテスト結果の分析を通して、身につけなければならない学力を洗い出して、日々の授業の中で重点指導していこうという研究であったように受けとめた。 児童の実態に沿った効果的な授業が、継続して実践されることを期待し

	たいと思った。 ２．「水之上小学習発表会について」 11月９日（土)、水之上小学校の学習発表会を見に行った。 １年生の元気でかわいい「あいさつ」に始まって、６年生の内容のある締めの「あいさつ」で終了した。 ２年生による「スイミー」の音楽劇、５年生による、いろいろな難度の高い縄跳びを披露する「チャレンジ縄跳び」、６年生による「修学旅行で学んだこと」をプレゼンテーションにした発表など、歌や合奏だけでなく、日頃の学習の成果が十分発揮された学習発表会であった。 保護者を中心とする観客も50～60名の参加があり、よい発表会だと思った。 ３．「松ケ崎小学校150周年記念式典について」 11月10日（日)、松ケ崎小学校150周年記念式典、学習発表会･祝賀会が行われたが、午前中、水之上地区で行う「千本イチョウ」の除草作業に参加しなくてはならなかったことから、午後の祝賀会だけに参加した。 祝賀会は、小規模のものかと思っていたが、参加してみるとすごい人数の参加者で、地元の方々や近辺に住んでいる卒業生、この日に、わざわざ埼玉から帰ってきたという80歳代の卒業生の方の踊りや、90歳代、100歳という方々が、次々にマイクを握ってあいさつされる姿に圧倒された。今は少人数の学校になっているが、この松ケ崎小学校を、愛し支えている卒業生の熱き思いを実感したひと時であった。
葛迫委員	１．「県民週間について」 11月1日（金）から７日（木）は、「地域が育む『かごしま教育』県民週間」であったが、市民文化祭等で時間がとれずに、垂水中央中学校だけの参観となってしまった。 文化祭前ということで、１年生、３年生は文化祭･合唱コンクールの準備に追われていた。 そのような中、１年生は各クラスが素晴らしい作品を見せてくれる、「モザイクアート」の作成中で、ドットの黒塗りに一生懸命鉛筆を走らす姿が印象的であった。 ３年生は、劇で使う背景画や小道具を一人一人が担当を決めて製作し、子どもたちが、文化祭の成功に向かっている姿が伝わってきた。 「自分たちで企画立案し、製作し、そして発表するのだ。」という強い気持ちを感じた。 11月10日の文化祭当日に展示された1年生のモザイクアートは、来年のフェンシング競技に向けてのメッセージが込められた、素晴らしい作品であった。 中学校をゆっくり参観しながら思ったことだが、２階に上る階段の壁に「北迫正治さん」画集のコピーが貼ってあった。 垂水市出身で、鹿児島大学在学中に、ラグビーの試合中、頚椎を傷め、首から下の体の自由がなくなった。その絶望から幾多の苦難を乗り越えて、彼は口にくわえたペンと筆で、文字と絵を描くことができるようにな

	り、そのことが生きる喜びとなられた方である。 　今回開催されたワールドカップラグビーにおいて、ラグビー日本チームは、日本人に勇気と幸福を与えた。大変素晴らしいことである。しかし、その一面、多くのスポーツのその裏側には、危険というものが同時にあることを、私たちは忘れがちである。垂水中央中の階段を上りながら改めてスポーツの厳しさを考えさせられた。 ３．「垂水市民文化祭について」 　11月３日(日)、今年の垂水市民文化祭は、舞台部門と、展示部門が文化会館で開催された。 　昨年は、展示部門が市民館、舞台部門とお茶席が文化会館に別れて開催されたため、今年のような同一場所での開催は非常によかったと思う。 　昨年は、文化会館から市民館への移動に時間と労力がかかり、市民館の展示部門への来場者が少なかったように感じていた。 　今年の文化祭は、舞台と展示を文化会館で観覧しながらできたことで、移動時間の短縮や、産業祭との連携もスムーズに行えたことから、素晴らしい文化祭となった。ただ、展示部門については展示場所が限られたスペースで狭くなったため、一部のクラブや同好会においては展示スペースを窮屈に感じたようであったが、一般の来場者はどう感じたのだろうかと思うと同時に、今後の対応が急がれると感じた。 　例年思うことだが、プログラムが進むにつれ来場者は増えていくが、開会式の来場者が少ないことが寂しく思えた。
田之上委員	１．「かごしまの教育県民週間について」 　かごしまの教育県民週間では、垂水小学校、垂水中央中学校、垂水高校を訪問し、垂水小学校は、少し時間をかけて全体を参観した。 　子どもたちはとても元気で、学習にも励んでいた。垂水中央中学校は１時間ぐらいかけて参観した。秋になり、どの学校も同じように言えることだが、子どもたちが、すごく落ち着いて学習に取組んでいるように感じた。あいさつもよくしてくれて、とても気持ちよかった。 　垂水高校も、どのクラスも授業にまじめに取組んでいて、話しかけても大変よい受け答えをしてくれた。先日設置されたエアコンについて生徒に聞いてみたところ、「すごくいいです。暑さが全然違います。」と実感がこもっていた。私自身、「よかったなあ。」と思うことだった。ただ、特別教室への設置はないことから、普通教室での授業との差は出てくるのであろうと思うことだった。 　この時期、小学校では祖父母参観日や地域との行事などが組まれているようで、多くの方がお越しいただいている一方、垂水高校に来られる方はほとんどいらっしゃらないことからも、地域の方が来ていただけるような何かがあればいいのではないかと思えた。 ２．「垂水中央中文化祭・合唱コンクールについて」 　11月10日（日）は午前中、松ケ崎小学校創立150周年式典に参加し、その後、垂水中央中学校の文化祭と合唱コンクールを参観した。合唱は、本

	当に毎年毎年、素晴らしい歌声を聞かせてもらっている。クラスの中では、本番までの練習期間、思うようにいかないこともあったかもしれないが、当日は心一つになり、しっかりと歌い、まとめあげていたことに感動を覚えた。 　また、学年の代表３名による弁論大会では、自分の身近なところに視点を向け、当たり前と思える物事の奥には、多くの人間が関わり、支えてくれている人がいることから、「自分もそのような人になりたい」など、感謝の気持ちを堂々と発表していたことに感動した。 　このように、身近なところに視点を置くことについては、先生方の日頃の指導があるからではないかと思った。 ３．「東川隆太郎氏の講演会について」 　今回、日本遺産に「垂水麓」も認定されたことから講演会が開催された。東川隆太郎さんは、鹿児島弁で軽やかに話されるので、すごく聞きやすく、楽しく聞かせてもらった。地域の方々も多く参加されていた。 　日本遺産に「麓」が認定されたことについては、私自身もよく知らないが、市民を始め、児童生徒へも紹介する機会や、学べる資料などが必要ではないかと思った。 ４．「読書まつりについて」 　今年も、垂水小学校の「読書まつり」に参加した。普段は本を読むだけだが、お祭りという名がついていることで、楽しいことをしようと思い、パネルシアターや大型絵本を使うなどして、40分間楽しく読み聞かせをさせていただいた。 　子どもたちも、大きな声で笑ってくれて、私たちメンバーもうれしかった。 　このようなことを通じて、子どもたちが少しでも本を読んでみようと思うきっかけになってくれたら「うれしいな。」と思うことだった。楽しい時間を過ごさせてもらった。
福里委員	１．「学校訪問や県民週間等について」 　教育委員になって、初めての学校訪問で、牛根小学校を訪問した。 　学校内は塵ひとつなく、きれいだなあと感じた。授業参観では、児童一人一人が「積極的に授業を受けているなあ。」と感じ、よい雰囲気だと思った。 　校長先生の学校経営の説明の中で、「中学生になったときに物怖じしない、一人一人が自主的にいろいろなことが言えるように」という言葉が印象的だった。 　境小では、生活リズムを確立するために、さまざまな活動、例えば、自分でお弁当を作ったり、親子で料理をしたり、味噌汁を作ったり、小規模校ならではの活動もいいなあと思うことだった。勉強だけでなく、そのようなこともできていることに感心した。 　体力や運動能力が県平均を下回っているとあり、教頭先生に質問したところ、「苦手なことを継続的にすることが課題です。」と回答された。幼稚園では、人の絵を見て描く子どもや、失敗しないために「それ以上のことはしない。」など、失敗を恐れる子どもがいる。体験不足や経験不足が原因

	であると思う。小さい頃から絵を描いている子どもは、どんどん描いていく。やはり経験不足ということなのかと思う。また、親のプレッシャーも結構あり、幼稚園の子どもに関しても、かけっこで１番にならないと、何も買ってあげないなどの親子の関係を聞くこともあるが、その目標に親子で一緒に取組んでいることもなく、ただ、何事も１番になってほしいということを、気がかりに感じる。そのようなことが、小学校でもあるのだということを聞いてびっくりしている。 松ケ崎小学校の創立150周年式典後の学習発表会を見せていただき、小学１・２年生の落語を聞いたとき、すごいなあと感じるとともに、小規模校ならではの、さまざまな発表があり興味深かった。 かごしまの教育県民週間は、垂水小学校に参観に行き、高齢者とのふれあいや、体育の授業を参観した。来年は、今年よりも積極的に多くの学校を参観していきたいと思った。
教育長	実りの秋にふさわしい、子どもたちの姿を、いろいろな場面で見せていただいたことに感謝します。 委員報告の中で、特に共通していたことは、県民週間だったと思うが、それぞれの学校がそれぞれ学校の特色を生かしていたことだと思う。 子どもたちの体験不足が指摘される中で、地域の中の学校が地域の力を借りてそのような体験をさせるというのは、非常に大切だと思う。 それと、垂水中央中の文化祭と合唱コンクールも、すべての生徒の一生懸命さが見て取れる、素晴らしいものであったなあと思った。 １．「19 市学校教育課長会について」 10 月 17 日（木）、19 市学校教育課長会が垂水市で開催され出席した。学校教育課がさまざまな面で準備し、19 市のよい意見交換ができたように思うことであった。 特に、教職員の業務改善や学力向上など、喫緊の課題について時間をかけて、本音の部分で実りある意見交換ができ、会議後の情報交換会も有意義な話し合いができたように思った。 ２．「垂水市陸上記録会について」 陸上記録会を見ていて、子どもたちは、確かに一生懸命頑張っている。しかしながら、なかなか新記録が出ない状況である。その原因は何なのかなあと考える。確かに、体力、運動能力が以前に比べて落ちてきているようには思う。運動する機会が減ってきているのだろうと思う。また、運動のこつをきちっと教えてくれる指導者がいることで、走り方もちょっと変えることで、早く走れるようになったりすると思う。ソフトボール投げや走り高跳びについても同様に、こつを指導することで、まだまだ伸びると思いながら、もどかしさを感じ、これからの体育指導の在り方や練習についても、学校への具体的な指導を行ってまいりたい。 ３．「小学校 8 校集合学習会について」 10 月 29 日(火)から 30 日(水)に小学校 8 校集合学習会を開催した。

	子どもたちの姿を見て、ああ、この事業はやはりいいなあと思った。 　小規模校の子どもたちも一緒に、垂水中央中に集合して２日間授業に受け、授業も大変よい内容であった。子どもたちの感想にも、非常に充実した２日間であったこと、中学校入学がとても楽しみだということを、お礼も込めて綴ってあった。この事業を行うことで、中１ギャップの解消にもつながるものと思っている。この事業も工夫しながら続けていかなくてはと思っているところである。 ４.「市町村教育委員会自主ブロック研修会について」 　１１月５日から６日、鳥取市で開催された「市町村教育委員会研究協議会ブロック研修会」に参加し、メインは、コミュニティスクールが話題となった。 　本市は、コミュニティスクールは導入していないが、それに代わるものとして、例えば学校評議委員会や、学校応援団など、双方向の交流が行えていると思っている。 　コミュニティスクールは何かというと、前述の仕組みに加え、人事権に対しても意見を出し、学校を改善していくということも含まれる。しかしながら、中には人事権まで意見を出すということを除いて、コミュニティスクールを運営しているところもあり、まさに本市が行っている事業と変わらないことを行っているところもあった。 　大切なことは、いかに学校が外部の方々へ開き、外部の方々がいかに学校に来てもらうかという、この双方向の関係をどう作っていくかであると思う。そのようなことから、本市においては、コミュニティスクールを早急に作る必要はないように思え、導入については今後の課題にしたいと思った。 　翌日は、学力向上対策の分科会に参加した。 　教育予算の多いところは、そのことに予算をかけることができる。例えば人の配置である。教員免許を持った人を学習指導員で雇用し、小・中学校を回り、具体的に学習指導をする。そのような人材もいることからも、そのために予算化して学力向上を図るところもある。しかしながら、そのようなことを行っても、なかなか全国学力･学習状況調査結果が思わしくないこともあり、やはり、よい先生方を配置しても、予算によるよい教育機器を導入して、子どもに与えても、なかなかうまくいかないという話もあった。つまり、学校に派遣された先生方と、学校の先生方をしっかり繋ぐ人がいないと、難しいところもあると話されていた。派遣された先生方を、「学校がどのようにうまく活用していくか。」というビジョンを持たないといけない。 　また、今の子どもたちの実態として、長文読解力と根拠を持った表現力が低下していることが課題となり、本市も同様だと思った。このことは、全国的な共通の学力課題であると思った。そのような課題を解決していかないと、子どもたちの学力は、なかなか上がらない。学力の２極化も話題になり、学力上位層の子どもたちが少なくなってきているという課題も出された。これは、授業の中身にも問題があるのではないか、つまり、中間層の学力にねらいを置き授業展開すると、学力が下位の子どもたちの引き上げにはなっているが、学力が上位の子どもたちは、育っていかないということから、学習をどう構想していくかという、授業構成力・構想力に関わ

	ってくる問題である。伸びる子どもには、課題を準備し、併せて、底上げも行うことを行っていかないと、すべての子どもを伸ばすということはできず、ますます２極化がさらに広がっていくのではないかと考える。 　本市において、そのようなことも意図しながら、学校訪問や授業参観を行っていかなければと思った。
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長	10 月 9 日から 11 月 11 日までの主な行事等について報告。 併せて、12 月 9 日までの予定についてお知らせした。
６　閉　会	